ヨシュア記
まずここまでの話を振り返ってみましょう
神はアブラハムとその子孫であるイスラエル民族
を選んでいましたが彼らはエジプトで奴隷にされました
そこで神はモーセを遣わしてイスラエルをエジプトから救い出し
シナイ山で契約を結びました その後彼らを荒野に導かれたの
で彼らは約束の地の外に宿営していた
のです モーセは彼らに神の命令に従い
神がどんな方かを他の国々に示すように呼びかけました
ヨシュア記はモーセが死んだ直後からイスラエルが約束の地に
入ろうとするところを取り上げ 4 つの大きな出来事を描いています
ヨシュアはまずイスラエルを約束の地に導きます
しかしそこでカナン人に敵対され戦いが始まりました
この戦いに勝利するとヨシュアは約束の地を分割して
12 部族にゆずりの地として与えます
そして最後にヨシュアから民への説教をもって
この書は終わるのです では話がどう進んでいくのか見て
いきましょう 最初のセクションはモーセの死
から始まりヨシュアが新しいリーダーに任命
されます 著者はヨシュアを新しいモーセ
として描いています ヨシュアはモーセと同じように
シナイ山で結んだ契約である律法に従うよう民に呼びかけます
次にヨシュアはモーセが民数記 13 章と 14 章でしたように
約束の地に偵察隊を出します ただし今回の偵察のほうがはるか
に良い結果を出しカナン人の何人かはイスラエル
の神に従いました それからヨシュアはイスラエル
のすべての民を率いてヨルダン川を渡り約束の地に入った
のです 割れた海を渡ってモーセがエジプト
を出たようにここではヨルダン川が割れ
祭司はイスラエルの民にそこを渡らせながら契約の箱を運びました
5 章では場面が変わりイスラエルは神の契約の民として
のルーツを振り返り新しい世代は割礼を受け
約束の地での初めての過ぎ越しを祝います
そして先に進んでいこうとした時
ヨシュアは不思議な戦士と出くわします
彼は神の軍の将と名乗りヨシュアは彼にあなたは味方か

敵かと聞きます 彼はどちらでもないと答えました
それはヨシュアこそが神の味方なのかが重要だという意味でした
これはヨシュア記がイスラエル対カナンではなく
神の戦いについて描いていることを示しています
イスラエルはその戦いを目撃し時には神の計画に用いられるもの
なのです 続いて 2 つ目のセクションです
ここにはイスラエルがカナンの複数の部族と戦った記録があり
まず 2 つの戦いについて詳細に記しています
次に長年にわたる戦いを短く要約した話があります
最初はエリコとアイとの戦いですがここでは神の誠実さとイスラエル
の過ちが浮き彫りにされています エリコでは
イスラエルは完全に神任せの攻撃法を取るように言われました
そこで神の存在を象徴する契約の箱をかつぎ
6 日間音楽を奏でながら歩いたのです
この期間はラハブがしたようにエリコの人々もイスラエルの神
につくチャンスでした でも誰もそうしなかったのです
そして 7 日目に祭司が角笛を吹き鳴らすと城壁が崩れ
イスラエルは勝利しました この話で重要なのは神こそが民
を救う方でありイスラエルに必要なのはただ信じて
待つことです 次のアイの戦いではそれとは逆
の真理が教えられています アカンというイスラエル人がエリコ
で神に捧げるべき戦利品を盗みそれを
隠していました 神がイスラエルにしてくださった
ことを思えばこれは本当にひどい行いです
そのためイスラエルはアイとの戦いでこ
っぴどく負けてしまいましたイスラエルはへりくだって悔い
改めアカンの罪に厳しく対処した後
にやっと再び勝つことができたの
です この 2 つの話がここに配置されている
のは互いに合わさって重要な真理を
伝えるためです イスラエルが約束の地を受け継ぐ
なら神に信頼し律法に従わなければなりません
特別扱いはされません このセクションの次はカナンの
一族であるギブオン人の話から始まります
彼らはラハブと同じようにイスラエルの神につくことにし
イスラエルと和平を結びました これは

イスラエルを打倒するために連合したカナン人のほかの王たちとは
対照的な姿勢です イスラエルは彼らに戦いを挑み
圧勝しました このようにこのセクションはモー
セとヨシュアによる勝利の戦いを要約して終わります
ここで少し考えてみましょう この暴力に満ちたストーリーに
違和感を感じませんか イエスに従う者ならイエスは敵
を愛せと言ったのにと思うのではないでしょうか神
はなぜ戦いを命じたのでしょう まずなぜ相手がカナン人だった
かです その主おもな理由は
聖書のもっと前の箇所を見るとわかります
カナン人の文化は著しく堕落しており
特に性的な堕落についてはレビ記 18 章に記されています
また子どもをいけにえにしていたことについては
申命記 12 章に書いてあります 神はイスラエルにこのような文化
の影響を受けさせたくありませんでした
次に神は本当にすべてのカナン人を虐殺せよと命じたのか
という疑問が出てきます 一見すると完全に滅ぼせ一人も
残さなかった息ある者を聖絶といった言葉づかい
が目につきます しかし熟読するとこれらは誇張
表現で文字通りの意味ではないことがわ
かります ここでカナン人についての命令
を最初に書いている申命記 7 章を見てみましょう
イスラエルはまずカナン人を追い出すように命じられています
ところが次に完全に滅ぼせと言われそのあとに彼らと結婚するなとか
彼らと商売をするなとか言われているのです
滅ぼし尽くした相手とは結婚はできませんもうおわかりでしょう
同じことがヨシュア記でも言えます 例えば 10 章では
イスラエルがヘブロンやデビルの町の人々を
一人残らず殺したと書いてありますが
15 章を見るとこの二つの町はまだ存在しカナン人が住んでいます
このことからヨシュアは物語を語る手法として誇張表現
を使いながら中近東の戦の物語に出てくる常套
句を用いて書いていることがわかりますつまり
ここに書かれているのは文字通りの皆殺しではないのです
それにラハブやギブオン人のようにイスラエルの神についたカナン
人の話を思い起こせば神が彼らの回心を歓迎しておられる

ことがわかります 最後にここに記されている出来事
はイスラエルの歴史において特殊
な期間であることを覚えておきましょう
戦った相手はカナンの中でも一握りの国々です
ほかの多くの国々とは和平のための努力をするように
と神から命じられていることが申命記 20 章を読むとわかります
ですからこれらの戦いの記録が記されている目的は
断じて神の名のもとに暴力に走ることではありません
むしろこれらの記録からは歴史の中で特定の期間
人間の邪悪さに対して神が正義を行使されたことと
イスラエルがカナン人に滅ぼされないように
守られたことがわかるのです それでは話を元に戻しましょう
何年も続いた戦いの後年老いたヨシュアが 12 部族に土地
を分割して与えます このセクションの多くは土地の
境界線について割かれます これは私たちにとっては文字だけで
説明する地図の様で正直退屈ですしかしイスラエル
の民にとってはこの境界線は非常に重要なのです
これは神がアブラハムにあなたの子孫が約束の地を受け
継ぐと言ったことが細部にいたるまで成就したということ
なのですから そして最後のセクションです
ヨシュアは二つの説教をしますが
これは申命記にあるモーセの説教と似ています
神がいかに寛大な方かを語り約束の地に導き
カナン人から守ってくださったことを思い起させます
そしてカナンの偶像を捨て神との契約に誠実になれと呼び
かけました 契約を守るならいのちと祝福を
受け守らないならカナン人に下った
のと同じ裁きを受け約束の地も追われるだろうと警告
しました どちらを選ぶかヨシュアは民に
選択を迫ります イスラエルはどう応えるかそれが
最後に残る疑問です これがヨシュア記です

500 字の要約

ヨシュア記は、神がアブラハムとその子孫であるイスラエル民族を選び、エジプトで奴隷にされた後、モーセを遣わして救い出し、シナイ山で契約を結び、約束の地の外に宿営してい

た出来事から始まります。ヨシュアはモーセの死後、新しいリーダーとして登場し、律法に従うよう民に呼びかけました。
ヨシュア記は 4 つの主要な出来事を描いています。最初に、ヨシュアがイスラエルを約束の地に導き、カナン人との戦いが始まりました。次に、ヨシュアは約束の地を 12 部族に分割しました。最後に、ヨシュアは民に説教をし、この書を締めくくりました。
ヨシュアは新しいモーセとして描かれ、律法に従い、契約を守るよう民に呼びかけました。ヨシュアはまた、偵察隊を派遣し、約束の地に入り、ヨルダン川を渡りました。この過程で神の奇跡が示されました。また、カナン人との戦闘で神の指導が重要であり、イスラエルは神を信じることが勝利の鍵でした。
ヨシュア記には暴力的な要素も含まれていますが、神の命令は文字通りの皆殺しではなく、誇張表現を含んでおり、特定の期間における人間の邪悪さへの神の正義行使を示しています。また、神に従う者が歓迎され、回心する者は許されました。
最後に、ヨシュアは土地の分割を行い、神の約束が実現しました。彼は民に対し神への忠誠を説き、神との契約を守るか、破るかの選択を迫りました。
ヨシュア記は、イスラエルの歴史と神の指導に焦点を当てた書物であり、神の約束と忠誠が重要なテーマとなっています。